

令和2年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究  
研究実績報告書

1. 研究課題名

運転免許返納に至った高齢ドライバーの心理的サポートに関する研究  
～当事者・家族および免許返納に関わる運転免許センターの警察官の双方の視座から～

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	成松 玉委	看護学部 看護学科・講師
研究分担者	大山 一志	看護学部 看護学科・助教
	宮野 公恵	看護学部 看護学科・助教
	岸田 るみ	看護学部 看護学科・助教
	藤井 博英	看護学部 看護学科・教授
	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
	柏葉 英美	岩手県立大学 社会福祉学部・准教授

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
千葉県警察本部、青森県警察本部、 岩手県警察本部、秋田県警察本部、 熊本県警察本部	運転免許センター

4. 研究期間

2020年7月1日～2021年3月31日

5. 研究の目的

我が国は年々高齢化の一途を辿っているが、同時に高齢ドライバーの増加も招いている。昨今、メディアでは高齢ドライバーによる事故が取り上げられ、高齢者は、その度に周囲から免許返納を強く求められている。しかし、免許返納で生じる心理的变化については置き去りにされたまま免許返納の議論だけが先行している実情にある。本研究では、免許返納にとまなう高齢ドライバーの心理的变化を明らかにすると同時に、免許センターで免許返納に関わる警察官の対応内容についても調査し、その実態を明らかとすることとした。

6. 研究報告

2020年4月～5月の第1回非常事態宣言、2021年2月～3月第2回非常事態宣言の渦

中にあり、収束の見通しが立たない状況にて調査研究を実施できない状況にある。千葉県警察本部・青森県警察本部・岩手県警察本部・秋田県警察本部・熊本県警察本部の運転免許センターから協力の承諾を取得していながら、調査研究を実施できない状況が続いている。そこで、千葉県免許センター所長補佐の中村氏、熊本県警察本部運転免許課安全運転相談係下田氏と、電話にて現状の共有と今後の方向性について調整をした結果、いずれもコロナ収束後には協力は惜しまないとの言葉が聞かれた。また、2019年度に発表した事例を、運転免許の返納を強いられた高齢ドライバーの①傷、②悲しみ、③怒り、④恐れの4層構造について述べられている部分を分析した。結果、免許返納後の高齢ドライバーには、『外部の暗黙のプレッシャーによる高齢者の怒りと傷』、『生きがい喪失への危機感』、『身体機能の低下に伴う危機感』、『運の悪さと些細なアクシデントに伴う心の傷』、『過信が引きずる運転免許再取得への期待とあがき』などが、高齢者の後悔に内在していることが明らかになった。

## 7. 成果の公表

「運転免許の返納を強いられた高齢ドライバーの心理的動揺」

日本ヒューマンケア科学学会誌、Vol.13.No.2.2020 に掲載された。